

カキ生育情報

第 3 報
千葉県農林水産部
令和元年 7 月号

果実の生育は平年並みか、平年よりやや良好です。不整形果や病虫害被害果を中心とした摘果、込み合った場所の枝葉の間引き等の枝管理を行いましょう。炭疽病やカキノヘタムシガ等に対する病虫害防除も重要な時期となります。

1 令和元年 6 月の気象

令和元年 6 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は、第 3 半旬が平年より 1.7℃ 低く、第 6 半旬が平年より 1.9℃ 高く、他はほぼ平年並みであった。月平均気温は 20.9℃ で、平年より 0.2℃ 高く、前年より 0.5℃ 低かった。

降水量は、第 1 半旬はほとんど降雨がなく、第 2、第 3 半旬は平年より多く、他は平年並み～平年より少なかった。月合計は 299mm で、平年の 123%、前年の 106% であった。

日照時間は、第 2、第 5 半旬は平年より少なく、他は平年並み～平年より多かった。月合計は 157 時間で、平年の 118%、前年の 90% であった。

表 1 令和元年 6 月の気象 (暖地園芸研究所)

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.5	19.7	20.5	2	26	1	34	29	54
2	19.7	20.1	21.2	137	29	72	16	26	23
3	18.6	20.3	20.7	75	47	47	24	22	22
4	22.0	21.2	19.4	13	44	65	52	20	9
5	20.6	21.1	21.5	48	55	96	9	18	22
6	23.9	22.0	25.0	25	43	2	22	19	43
平均/計	20.9	20.7	21.4	299	244	282	157	133	174

2 樹及び果実の生育

6 月末のカキの果径を表 2 に示した。横径は、「西村早生」及び「松本早生富有」が 2 地区の平均でそれぞれ 3.57cm、4.05cm、暖地園研の「富有」が 3.83cm であった。平年と比べると、「西村早生」が 102% でほぼ平年並み、「松本早生富有」は 107%、「富有」は 109% で平年よりやや大きかった。

縦径は、「西村早生」及び「松本早生富有」が 2 地区の平均でみるとそれぞれ 2.85cm、3.02cm、「富有」が 2.99cm であった。平年と比べると、「西村早生」は 103% でほぼ平年並み、「松本早生富有」及び「富有」は 107% で平年よりやや大きかった。

果形指数は、「西村早生」と「松本早生富有」が 2 地区の平均でみるとそれぞれ 1.26、1.34、「富有」が 1.28 であった。平年と比べると、3 品種ともほぼ平年並みであった。

本年の果実の発育は、3 品種ともに平年並みか、やや良好であった。これは、開花期が平年並みで、その後の気象条件もほぼ平年並みに推移しているためと考えられる。生理落果は暖地園研では平年並である。

表2 果実の生育（6月30日の果径）

品 種	調 査 地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	3.49	3.44	3.96	2.65	2.74	3.14	1.32	1.25	1.26
	暖地園研	3.65	3.49	4.14	3.04	2.73	3.26	1.20	1.28	1.27
	平 均	3.57	3.50	4.05	2.85	2.77	3.20	1.26	1.26	1.27
松本早生	市原市	4.04	3.85	4.21	2.99	2.78	3.09	1.35	1.38	1.36
	富 有 暖地園研	4.07	3.62	4.52	3.05	2.85	3.20	1.33	1.27	1.41
	平 均	4.05	3.77	4.36	3.02	2.82	3.15	1.34	1.33	1.39
富 有	暖地園研	3.83	3.51	4.24	2.99	2.80	3.09	1.28	1.25	1.37

果形指数：横径／縦径

平年：暖地園研は1990年～2018年、いすみ市は1998年～2018年、市原市は1999年～2018年の平均値

3 7～8月の作業

1) 摘 果

「西村早生」では、果頂部が凹んでいる果実や部分的な生育不良により不整形になった果実は、渋果の恐れがあるので摘果する。なお、8月中旬頃と収穫前の9月にも、渋果を樹上選別するための摘果を行うので、7月の時点では目標着果数(10a当たり12,000果)より2割程度多め(10a当たり14,000～15,000果)に果実を残しておく。

なお、いずれの品種も目標着果数を下回る場合は樹勢のバランスを保ち隔年結果を助長しないようにするため、不整形果や病虫害被害果の除去など必要最小限の摘果にとどめる。

2) 枝管理

せん定が不十分であったり、不定芽(陰芽)が多く発生して枝葉が込み合っている場合は、病虫害の発生を抑え枝の充実を図るため、枝葉を間引きして風通しを良くする。特に、炭疽病の病斑が発生した枝は果実等への感染源になるので必ずせん除する。なお、2次伸長枝はこの時期は放任し、8月下旬以降に整理する。

枝葉が少ない場合は徒長枝等もせん除せずに、ねん枝や誘引によって葉数確保に努める。

3) かん水

夏季に高温及び乾燥が続いた場合は、果実肥大の促進や果実の着色を良好に進めるためにもかん水が必要である。特に乾燥しやすい園、作土の浅い園では入念に行う。

4) 病虫害防除

7月から9月上旬は、炭疽病、落葉病、うどんこ病及びカキノヘタムシガの防除時期である。炭疽病は雨滴によって飛散伝染するため、降雨が多い場合は特に留意する。

カキノヘタムシガの2回目の幼虫の食害が始まるため、8月中旬に防除を行う。なお、カメムシ類の発生が多い場合は、8～9月が防除適期となる。

防除に際しては、千葉県農作物病虫害雑草防除指針を参考に行う。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>